

林木遺伝資源情報

第2号 - 1 2002.9
独立行政法人 林木育種センター



国指定天然記念物の樹木の収集保存シリーズ No.2

東北地方における国指定天然記念物の収集・保存

林木育種センター 東北育種場 大 月 敏 彦

1 収集・保存の現況

東北育種場では東北育種基本区内（青森、岩手、宮城、秋田、山形及び新潟県）で国の天然記念物に指定されている樹木51件のうち、現在までに40件について収集・増殖を実施し、28件を保存し、6件が養苗中です（表 - 1）。

収集したうち数件は老齢等のため増殖・育苗段階で枯死したことから再度収集を計画しています。

表 - 1 国指定天然記念物の収集・保存件数

	所在件数	収集	保存	養苗中
青森県	2	2	2	
岩手県	12	10	5	1
宮城県	11	9	4	3
秋田県	3	3	2	1
山形県	9	7	7	
新潟県	14	9	8	1
計	51	40	28	6

2 特 徴

当基本区には地域の特性上、分布の北限や南限の樹種、樹齢1,000年を越える巨樹が確認されるなど多様な樹種が天然記念物の指定を受けています。

群落や集団で指定されているものについては、「角館のシダレザクラ」や「早池峰のアカエゾマツ自生南限地」があり、アイソザイム遺伝マーカー等を利用した遺伝的多様性の調査を行っています。

「角館のシダレザクラ」は、秋田県角館町の武家屋敷に点在する152本が天然記念物に指定されており（写真1）1656年に領主の佐竹義隣（よしちか）の嫡男義明（よしはる）の嫁が嫁入りの際に京都から持ってきた3本の苗木が植え継がれたものといわれています。収集・保存にあたっては、アイソザイム分析により15タイプに分類されたので、各タイプから1本ずつ任意に選び、合計15個体から採穂（2001年）して養苗中です。

「早池峰のアカエゾマツ自生南限地」は日本では北海道以外に唯一存在するもので、アカエゾマツの自



写真1 角館のシダレザクラ(秋田県角館町)

生南限地です。

着果すると考えられるサイズの大きい個体は1960年に96本自生していたものが、1985年に59本、1994年には30本と減少しています。

当場では台風による土石流跡地に天然更新した稚樹から1995年に材料を採取し、クローン増殖し、保存（写真2）するとともに遺伝的な多様性を調査しました。



現 地
(岩手県下閉伊郡川井村)



当場保存園

写真2 早池峰のアカエゾマツ自生南限地

3 東北育種場で収集保存した主な国指定天然記念物

ツバキ自生北限地帯

(青森県平内町、秋田県男鹿市)



青森県平内町夏泊半島



本所保存園



秋田県男鹿市男鹿半島



本所保存園

ヤブツバキは常緑広葉樹林帯に主に分布しているが、東北地方では温暖小雪の海岸部を北上して分布しており、これら2つはヤブツバキの自生北限地帯の群落として指定されたものです。

ヨコグラノキ北限地帯

(宮城県白石市)



現 地



当场保存園

この天然記念物は、ヨコグラノキの北限の群落として指定されています。現在10数本が確認されています。周辺の植生はケヤキが優占し、亜高木で陽樹であるヨコグラノキがケヤキの日陰により枯死する恐れがあり、ケヤキ等の樹木の除去が求められています。

当场では1994年に5個体から小枝を採取し、クローン保存しています。

早田のオハツキイチョウ

(山形県西田川郡温海町)

「オハツキイチョウ」とは葉の主脈に雌花が生じ結実する「御葉付」という奇形木のことで、ここのものは2株あり、東側の1株が天然記念物の指定を受けています。

指定木にも正常な結実があり、御葉付も年によって付ける数が異なっています。

当场で1994年につぎ木増殖し、1996年には温海町公民館等に計7本里帰りしました。



現 地



当场保存園

鵜川神社の大ケヤキ

(新潟県柏崎市)



現 地



里帰り先(植栽直後)

幹周が11m以上もある国内有数のケヤキの巨樹で、樹齢は1,000年以上ともいわれており長年の風雪による被害も見受けられますが、今もなお樹勢は旺盛です。

当场では1994年に小枝を採取し、つぎ木増殖によって得たクローンを1996年に鵜川神社境内に8本里帰りさせました。